

# 宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター

宮崎県健康増進課

宮崎県衛生環境研究所

## ■ 宮崎県第 11 週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は 1,066 人（定点あたり 32.5）で、前週比 114%と増加した。

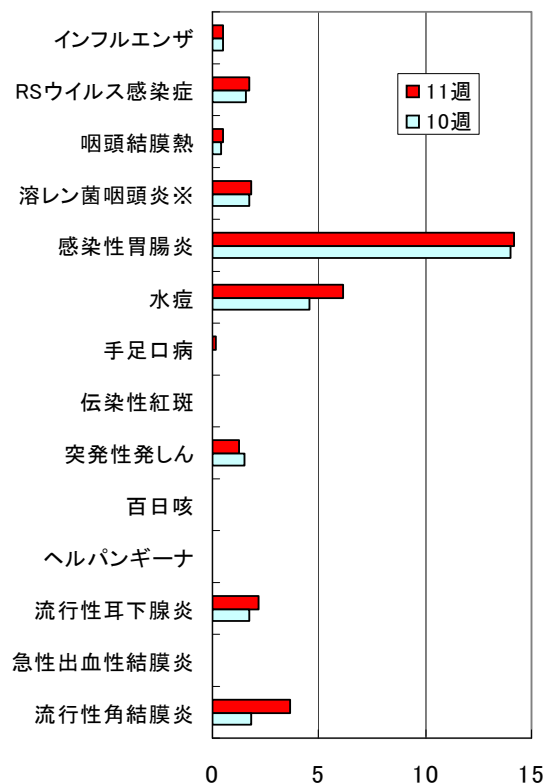
前週に比べ増加した主な疾患は水痘と流行性耳下腺炎であった。

水痘の報告数は 221 人（6.1）で前週比 134%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（4.1）の約 1.5 倍と多い。延岡（14.5）、日向（8.8）、日南（8.0）、都城（7.5）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 77 人（2.1）で前週比 120%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.6）の約 1.3 倍と多い。延岡（9.3）、日向（7.3）保健所からの報告が多く、警報レベルを超えている。年齢別では 4 歳から 7 歳で全体の約半数を占めた。

クラミジア肺炎 1 人が高鍋保健所から報告された。患者は 10 ヶ月の女兒で原因菌は *CHLAMYDOPHILA PNEUMONIAE* であった。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》  
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

## ■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年 齢 分 布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	14.2	小林 (28.7)、都城 (20.5)	1歳～6歳で全体の約6割を占めた。
水痘	7	6.1	延岡 (14.5)、日向 (8.8)、日南 (8.0)、都城 (7.5)	1歳～4歳で全体の約7割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.1	延岡 (9.3)、日向 (7.3)	4歳～7歳で全体の約5割を占めた。

## ■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□細菌（平成 22 年 3 月 23 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0~4	女	3.5		便	3.12	10505
<i>Salmonella</i> Muenchen (O8,(06):d:1,5)	60代前半	女	3.3		便	3.15	10506
<i>Salmonella</i> Newport(O8,(06):e,h:1,2)	20代前半	女	3.8		便	3.18	10507

#### □ ウイルス

報告なし。

### ■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 3 例が宮崎市、日南、小林（各 1 例）保健所から報告された。  
《宮崎市保健所》・90 歳代の女性で疑似症患者。痰、発熱、呼吸困難がみられた。  
《日南保健所》・70 歳代の男性で肺結核。痰がみられた。  
《小林保健所》・40 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 2 例が宮崎市、都城（各 1 例）保健所から報告された。  
《宮崎市保健所》・60 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は O8（VT1、VT2 産生）。  
《都城保健所》・20 歳代の男性で無症状病原体保有者。原因菌の O 血清型は不明（VT2 産生）。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : ○ウイルス性肝炎（B 型）2 例が延岡、日向（各 1 例）保健所から報告された。  
《延岡保健所》・20 歳代の男性で全身倦怠感、嘔吐、肝機能異常、黄疸がみられた。  
《日向保健所》・60 歳代の男性で肝機能異常がみられた。  
○破傷風 1 例が中央保健所から報告された。20 歳代の女性で開口障害、痙攣、易興奮性がみられた。

### ■ 全国第 10 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.9 で、前週比 95%と減少した。今週増加した主な疾患は流行性耳下腺炎と手足口病で、減少した主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,498 人（1.2）で、前週比 106%と増加した。例年同時期の約 1.5 倍である。沖縄県（3.9）、富山県（2.6）、石川県（2.5）からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 6 歳までが全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 1,117 人（0.37）で、前週比 128%と増加した。例年同時期の約 2.5 倍である。鹿児島県（2.3）、広島県（2.1）、愛媛県（1.8）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

#### □全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 288 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 2 例、腸管出血性大腸菌感染症 22 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、A 型肝炎 8 例、テング熱 2 例、レジオネラ症 9 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 4 例、急性脳炎 3 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 10 例、ジアルジア症 1 例、髄膜炎菌性髄膜炎 1 例、梅毒 13 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、麻しん 9 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第11週(03月15日～03月21日)

疾病名		第10週	第11週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	27	29	1	9		2	6	1			10
	定点あたり	0.46	0.49	0.07	0.90	0.00	0.40	1.20	0.17	0.00	0.00	3.33
RSウイルス 感染症	報告数	56	64	6	9	23	1		7		16	2
	定点あたり	1.56	1.78	0.67	1.50	5.75	0.33	0.00	1.75	0.00	4.00	1.00
咽頭結膜熱	報告数	15	17	2	1	6	5		1		1	1
	定点あたり	0.42	0.47	0.22	0.17	1.50	1.67	0.00	0.25	0.00	0.25	0.50
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	64	67	13	2	21	13	2	4	3	8	1
	定点あたり	1.78	1.86	1.44	0.33	5.25	4.33	0.67	1.00	3.00	2.00	0.50
感染性胃腸炎	報告数	503	511	104	123	40	31	86	60	6	49	12
	定点あたり	13.97	14.19	11.56	20.50	10.00	10.33	28.67	15.00	6.00	12.25	6.00
水痘	報告数	165	221	41	45	58	24	9	3	1	35	5
	定点あたり	4.58	6.14	4.56	7.50	14.50	8.00	3.00	0.75	1.00	8.75	2.50
手足口病	報告数	4	7	7								
	定点あたり	0.11	0.19	0.78	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1	3	1		1			1			
	定点あたり	0.03	0.08	0.11	0.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	54	46	15	7	8	3	1	5		3	4
	定点あたり	1.50	1.28	1.67	1.17	2.00	1.00	0.33	1.25	0.00	0.75	2.00
百日咳	報告数	4	1			1						
	定点あたり	0.11	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	4										
	定点あたり	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	64	77	6	1	37		4			29	
	定点あたり	1.78	2.14	0.67	0.17	9.25	0.00	1.33	0.00	0.00	7.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	22	15	7							
	定点あたり	1.83	3.67	5.00	3.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～11週)

2類感染症	結核	31例(3)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7例(2)			
4類感染症	つつが虫病	1例	レジオネラ症	1例	
	ウイルス性肝炎	3例(2)	急性脳炎	3例	後天性免疫不全症候群
5類感染症	梅毒	2例	破傷風	2例(1)	1例
					1例

( )内は今週届出分、再掲

感染症情報

**みずぼうそうとおたふくかぜが増えています。(3月15日～3月21日)**

みずぼうそうの報告が増えています。みずぼうそうにかかると、37～39度の熱が出て、それと同時に強いかゆみを伴った小さな水ぶくれが全身にできます。水ぶくれは顔や体にできる虫さされのような発疹で始まり、1日で小さな水ぶくれとなり、3～4日たつと破れて乾き、黒いかさぶたになりかゆみもおさまってきます。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全にかさぶたになるまで外出は控えましょう。

かゆみが強いので子どもはひっかきやすく、そのため、細菌等による感染を起こしやすくなります。爪を短くし、手をきれいにし、2次感染をおこさないように注意しましょう。また、肌着は毎日着替えて皮膚を清潔に保ちましょう。

この病気に直接効く薬はなく、かゆみを和らげる塗り薬や解熱剤が処方されます。

おたふくかぜは延岡市、日向市からの報告が多く、警報レベルを超えています。おたふくかぜにかかると、軽い熱が出て耳の下(耳下腺)やあごの下が腫れます。熱は耳下腺が腫れる前からでて、腫れがピークになるころまで続きます。高熱や頭痛、嘔吐など症状があるときは重い合併症も考えられますので、すぐに診察してもらいましょう。